

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292800057		
法人名	医療法人 美篤会		
事業所名	グループホーム花水神		
所在地	千葉県鴨川市東江見395-2		
自己評価作成日	8月17日	評価結果市町村受理日	平成30年10月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/12/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/12/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会
所在地	東京都世田谷区弦巻5-1-33-602
訪問調査日	平成30年9月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

花水神に入居される前、見学に来られた方は目の前の広大な海の眺望に感動される方が殆どです。恵まれた自然環境を活かし、利用者様が自然と穏やかな気持ちになれる、そんな毎日を提供できるように職員全員が心掛けています。一人一人の利用者様の気持ちや人生の背景、細かな点にまで寄り添えるように、毎月のケア会議では接遇の技術や介護職員としてのモラルの向上を主な議題として取り上げています。季節ドライブや地区の花火大会への参加や協賛を法人全体で行い、地域を盛り上げていこうという気概を持ちながら運営にあたっています。昨今頻発している地震や自然災害に対しては海が目の前という立地は脅威にもなりうるため、運営推進会議では災害に直面した際にどのような避難行動と地域の連携が取れるかをテーマにする機会が多いです。利用者様の高齢化や身体機能の低下は見られますが、第二の我が家と感じてもらえるような生活を今後も目指していきたいです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. JR江見駅から車で3分の、外房海岸と漁港を眺望できる場所に立地した2階建てホームです。日ごろは目の前が太平洋で見晴らしがよく、港を出入りする漁船の行き来が利用者を楽しませてくれます。一方8月の台風到来時期に高潮等の災害を考え、本部の指示の下早期に近くの高台にある系列施設に避難した事は、利用者・家族・関係者に安心感をもたらしています。  
 2. 家庭的雰囲気の中、理念「利用者の安心・安全を第一に考え、心から家族と思えるサービス」を既実践しており、多数改善事例(介護度、おむつ、歩行等)が見られる他、行政機関・病院・個人からの要請で障害のある利用者数人を受け入れ家族から感謝されています。又家族アンケートでも好評です。  
 3. サービス改善・向上に熱心に取り組んでおり、前回評価での3つの改善計画を全て達成しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	昨年度から江見地区の花火大会が開催され、地域の方を招き花水神の庭を開放し地域の方と一緒に楽しむ機会が生まれた。具体的な地域との交流の機会を運営推進会議のメンバーの方と話し合い、拡充している。	理念「地域とのふれあいを大切にして入居者の安心と安全を第一に考え、心から家族と思えるサービスに専念する。」を掲げ、職員は毎日のミーティング時に唱和し、毎月の職員会議時に確認・共有し、日ごろのサービスで既に実践しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進介護は2ヶ月に一度開催し、介護の話題に限らず、この地区で何が起きているか様々な話題で意見を交わしている。地域との交流はクリスマス会、花火大会をメインに今後も恒例行事として継続していく。	地域の行事に参加し、ボランティア(踊り等)を受け入れています。又ホーム主催のクリスマス会や施設前で開催される江見地区花火大会の際に施設の庭を開放し、地域から喜ばれています。又運営推進会議時には、地区長、民生委員、老人会長が参加し、地域との交流が進んでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	江見地区にも独居で暮らす認知症の方がおり、地域ぐるみで見守りを行っているが、危険を伴う行動をされる方もいるとの事で、認知症の方への支援の方法を地域の老人会や社協の方と話し合っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では事故報告や入居者の利用状況、健康状態を冒頭に説明し、事故に関してはどういった背景があったか、利用者様については施設で看取るケースや重症化への対応を具体的に説明するよう心掛けている。	会議は年6回、地域包括支援センター、民生委員、地区長、老人会会長、職員で開催し、現況・行事報告、ヒヤリハット・事故報告、介護保険改正、インフルエンザ・熱中症対策、災害避難実施等を取り上げ、活発に意見交換し、サービス向上に活かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	新規入居者の紹介や入居後の状況など市の方と連絡を取り合い、問題なく毎日過ごせているかを相互で確認している。	管理者は、必要の都度市担当に報告・相談しています。運営推進会議に必ず地域包括支援センターの出席を得て情報や意見を貰っています。又行政機関から依頼のあった障害者等介助困難者も受け入れ、緊密な協力関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	虐待や身体拘束については不適切な接遇も含め、身体的・精神的に利用者様を苦しめるような行為を行わないように指導している。門戸は施設外に出てしまうケースがあった為、危険性を鑑み、駐車場の門のみ鍵を使用している。	車の交通量が多い道路に面している為、運営推進会議了解の下、昼間も敷地の門は施錠しています。身体拘束は、月1回のケア会議で必ず取り上げる他、社内研修で年数回取り上げ、職員への周知徹底を図っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者様と常に寄り添う関係にあるため、責任あるケアを一人一人の職員が行えるように、モラルの向上、適切な声掛けを永遠の課題として業務にあたっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様の中で、成年後見人を利用したり、申し立てするケースが出てきている。制度の概要の理解と実際の活用方法を知識を深めながら学んでいきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結の際は利用者様のご家族に、直接関係する項目を丁寧に説明している。内容に変更がある際はご家族に説明し、同意書を取り交わしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時に、利用者様へのケアの手法や今後の方向性について随時説明するようにしている。施設への要望を書面にしてご家族へ郵送し、意見を聴取する機会を設けている。	家族の来訪時(殆どの家族が月1回以上来訪)や、電話連絡時に、家族の意見・要望を聞き、運営に反映させています。又年2回、書面で家族の要望を聞く機会を設けており、家族アンケートでも「よく話を聞いてくれ、対応してくれる」と好評です。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回開催しているケア会議で運営や業務に対する意見や要望を職員から出してもらい業務の改善の参考にしてている。管理者会議は月1回開催しており、本部からの伝達事項、各施設の提案や課題を取り上げ、サービスの向上に努めている。	管理者は、職員が話しかけやすい雰囲気を作り、日ごろ職員から意見を聞く他、月1回のケア会議で意見を聞き、運営に反映する様に努めています。又一部委員会を設け、職員の自主性と責任感育成を図っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が現場に入りながら、職員個々の介護技術や接遇の質を考課し、法人本部に報告する体制を取っている。職場に定着するために精神面や働きやすい環境かどうか対話の中でフォローしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	食事支援や体位交換、移乗技術など現場で活用できる内容の研修に参加している。併せて法人のPTや栄養士などから利用者に関わった内容の指導を受けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	鴨川市と南房総市のグループホーム管理者で2ヶ月に1回、管理者の集いを開催し、日頃の取組みや問題点をお互いに話し合い、業務の参考にし交流の機会を持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	他の利用者の方との関係性や、本人の生活への希望や不安を本人から直接聞き取り、ご家族とも相談しながら穏やかに毎日をご過ごせるように支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前はどのように生活されていたかをご家族から話を伺い、以前の生活スタイルを施設でもできる限り維持できるように取り組んでいる。入居直後は毎日をごどのように過ごしているかを逐一報告している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	穏かに毎日をご過ごしていくためにどういった問題が障壁になっているかを見極め、必要性の高い問題からケアの手法を考えるように心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者本位の支援を行うよう職員には常々指導している。出来ることは必要以上に手伝うことはせず、本人の残された力を最大限に活用するような寄り添い方を心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	離れて生活する利用者様の不安や要望を、面会の際にご家族へ報告し、利用者の内面をご家族と共有するようにしている。一時帰宅など家族と過ごす時間を作るように調整するケースもある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔の記憶を思い起こせるような場所への外出支援や、地区の方を招待しての行事を開催し、施設の中で暮らしながらも地域の方や知人との繋がりを維持できるよう可能な限り支援している。	家族、親戚、知人が、月1回以上のペースで、継続的に利用者を訪問しています。利用者の中には家族と外食したり、自宅に帰ったりしている人もいます。全員が地元出身者なので、職員とアジサイ・紅葉の季節にドライブで出かけると、「昔来た事がある」と嬉しそうにしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の生活を職員が主導していくのではなく、利用者様同士が協力してテーブルを拭いたり洗濯物を干したりと、自然と協力し合える環境作りに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後もご家族が何か相談事があれば気軽に足を運んでいただけるような関係性を作るようにしている。医療機関に移る場合などは今後の生活への不安や問題を相談に乗るようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	身体を動かすことが好きな方、家事の手伝いにやりがいを感じる方、静かに過ごしたい方など一人一人生活への意欲や希望は異なるので、毎日の生活の流れを観察しながら、無理なく楽しく過ごせるように支援している。	施設での生活を支える為に、職員は日々の関わりの中から、一人ひとり声をかけたり、言葉や行動、表情から思いを汲み取り、把握に努めています。意思疎通が困難な利用者は、家族から情報を得るようにしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族と本人から今までどんな人生を歩んできたか可能な限り伺うことを心掛けて、住み慣れた環境に近い生活を施設に移ってからでも過ごせるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日中活動やレク、他の利用者との関わりを毎日観察しながら、一人一人の利用者様の変化を把握するように心掛けている。本人が無理なく楽しく毎日を過ごせるような活動を行うようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員全員、毎日の申し送りで一人一人の利用者様の変化を把握し情報共有するようにしている。その中でケアのあり方を皆で検討している。家族の協力が必要な時は面会や電話連絡で納得するケアを検討する。	職員全員で毎月ケア会議で、利用者の情報共有を図り意見交換しています。計画作成者はそれら情報と利用者・家族の要望、医師、看護師の意見を織り込みながら半年毎に介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者一人一人の介護記録には、ただ単に業務の記録だけでなく、些細な変化や気持ちの動きなども記述し、具体的に利用者のことをイメージ出来るように書くことを意識している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の健康状態を考え無理がない範囲で、より良い生活が期待できる場合はご家族と一緒に新しい支援を検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との交流は機会が限られてはいるが、外出支援や買い物、地域行事への参加を通じて繋がりを維持していこうと努力している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族から特別な希望や以前からの掛かりつけ医が無い場合は、母体の中原病院を主たる病院と位置付けている。日中、夜間共にコールできる体制になっており急変時にも対応できるよう連携している。	利用者は、毎月1回定期健診を経営母体の病院で受けています。歯科医は必要の都度来訪し、系列の訪問看護師が毎週来訪し、健康をチェックしています。医療と介護現場の連携が緊密で、情報を共有し、昼夜を問わず適切な医療が受けられるようにしています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護の際は、利用者の気になる点や変化を職員が気軽に相談でき、訪看護ノートを残してもらう事で注意が必要な利用者様への対応を職員全員が把握できるようにしていただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医、訪問看護師やグループホーム担当の外来ナースとは、状態に注意が必要な利用者がある際は、連絡を密に取り、変化に対応できるように日頃から連携している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や見取りについての話し合いは、DrやNsと日頃から連携をとり、その必要性がある利用者様については早い段階からご家族とどういった最期を希望されるかを話し合っている。孤独にさせない終末期ケアを職員にその意義と手法を指導している。	契約時に重度化の意思確認を行い、必要時に同意書を貰っています。医師と訪問看護師、管理者の連携の下、看取りを行っており、昨年1名看取っています。又職員の看取り研修も定期的に行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	一人一人の利用者の疾患によってどのような急変が起こりうるか異なるため、個別にケースを想定して、利用者への対応や連絡方法、医療との連携の在り方について日々の申し送り話し合うようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	海が目の前という事と海拔が低い為、津波などの大規模災害に対して地域とどのように連携協力し対応するか、運営推進会議で議論している。短時間で利用者の安全を確保する方法は骨子が定まっておらず課題が残っている。	消防訓練は、5月に自主訓練を実施し、10月に消防署立ち合い訓練(夜間想定を含む)の予定です。一連の消防装置・機器は完備し、緊急時には可能な職員(殆ど近くに住んでいる)が、駆けつける体制になっており、備蓄も5日分準備しています。	本部指導の下、8月に台風の高潮対策の為、事前に近くの高台にある系列施設に実際に避難しました。今後は想定外の災害を考え、年1回の災害訓練実施と非常時持ち出し品の準備、防災頭巾等の準備が望まれます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員と利用者が強者と弱者の関係性にならないよう、日頃から共に生活している存在という意識を職員間に根付かせるよう努力している。一方的な声掛けや命令口調をその都度指導し、接遇技術を上げるよう努めている。	管理者は、日々の関わりの中で、気になることがあれば、その場で注意しています。研修会やミーティング時、尊厳とプライバシーを取り上げ、職員の意識向上に努めています。訪問時にトイレ誘導の声かけがさりげなくされていました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクや献立作りなど日頃から利用者の希望を汲み上げようと努力しているが、具体的に希望を伝えることが出来ない方も多いため、利用者が楽しめたり充実感を感じることが出来るような寄り添い方をしよう意識している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の利用者様の行動や気持ちを理解し、業務や時間にとらわれず、安心感を相手を持ってもらえるように接することを心掛けている。食事や入浴では時間が掛かるうとも焦らず事無く、本人のペースを尊重するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	傷んだ衣服などは家族に用意していただき、随時入れ替えるようにしている。買い物にお連れして、本人と一緒に衣服を選び購入することもある。着替えは自分で選べない方もいるので本人らしい洋服を選ぶよう注意している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	具体的に何を食べたいか話される利用者様が少ないので、職員が考え用意している部分があるが、季節の食材やご家族が持ち入れた野菜を使用するなど、喜んでいただけるような食事作りを心掛けている。	家庭的な雰囲気の中で、職員の手作り料理が提供されています。利用者の要望を聞いたり、家族の差し入れ野菜、誕生会や行事の稲荷、ちらし寿司、お彼岸のおはぎ等、食卓が和む工夫がされています。昼食時に利用者が「ここは景色は良いし、料理も美味しい。」と言っていました。	楽しい雰囲気の中で、利用者が食事を美味しく食べている事や食事は大切な活動の一つとして取り組んでいることを、家族に(毎月のお便り等で)知らせることが望まれます。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	安全に食事がとれるように、利用者の嚥下能力や咀嚼を考えながら、形態や献立を考えている。腎不全の方もいるので、注意が必要な食材や調理方法を栄養士の指導を受けながら、用意するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは夕食後の就寝前に行っている。入れ歯を外し、歯磨きしケースにしまう動作は、複雑な流れだが極力自分自身で行っていただき、出来ない部分はフォローしている。誤嚥性肺炎防止のために残渣物や清潔保持には注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入院時はオムツ対応だった方でも、グループホーム入居後はまずはトイレで排泄を済ませられないかを試して実践している。排泄パターンを観察し随時声掛けを行い、トイレに誘導すればオムツは不要な方が現状殆どである。	排泄チェック表により、入院時や入居時おむつ使用だった利用者を早目に誘導したり、パッドを使用し誘導回数を増やしたりしているお陰か、昼間おむつ利用者は殆どいない状況です。又パッドの使用によりおむつ代が激減し、家族から喜ばれています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の症状が見られる利用者様は多いため、食事の工夫や運動の促しを行い、何とか自然に排便できるよう努力している。それでも排便が無い場合は緩下剤を使用し、排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2～3回のペースで順番に入浴していただいているが、便で汚染してしまった場合や気分転換が必要な場合などは状況に応じて入浴をしていただいている。散髪時は全員入浴しサッパリしてもらっている。	原則週3回入浴しています。又排泄汚染時、散髪時、気分がすぐれない利用者等に合わせ、気分転換とコミュニケーションを図る為入浴を支援し、「気分が爽快になった」と利用者から喜ばれることもあります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎日の生活の中で疲れが出ていないか、他の利用者の方とうまく関係性が保てているか、体調が悪くないかを観察し、無理なく休む時間を作るように注意している。眠れないときや不意に目が覚めた際は、お話を聞き、安眠への促しを行う。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時、内服に変更があった時は、なぜ変更になったか、どういった種類の薬なのか、注意すべき副作用や禁忌について職員に申し送っている。ケア会議で具体的に薬の効用や注意点を話す機会を作っているようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	かるたや塗り絵などのレクを行っているが、利用者様相互で札をよむ方、塗り絵を配る方など個々に役割を持って自然に成り立つように職員が必要以上に手伝わないようにしている。洗濯物なども毎日の日課として自然と手伝ってくれる方が多い。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣への買い物や行事への参加などで外に出る機会を増やそうと努めているが、利用者の健康状態や職員の人手不足ですべての利用者にその機会を作ることは困難な状態である。	利用者は、天気や本人の気分により、近くに散歩したり、眺望の良い庭で外気浴をしています。年間行事計画の中で、桜花見・紫陽花・紅葉・イチゴ摘み等でドライブし、遠出を楽しんでいます。又家族が買い物や外食及び自宅に連れ出す利用者もいます。	職員数が限られるため外出支援が限定的になっている様に見えます。本部の協力を得ての不足気味の職員補充、外出支援の時間を優先的に作る工夫、家族の一層の協力により、外出支援をふやすことが期待されます。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族からお預かり金という形で、基本的には施設側が金銭を管理している。本人の希望がある場合は、個人でお金を所持している方はいる。何か買いたいと希望があるときは、預かり金から支払い物品を購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族と連絡を取りたいと希望がある際は、特段の事情が無い限りは連絡を取れるよう対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じる事が出来るような制作を利用者様と協力しながら行い、皆の目が付くリビングに展示するようにしている。居室にカーテンを使用しプライバシーを確保するようにしている。室温は快適な温度を保つように季節や天候を見ながら注意している。	リビング兼食堂は、家庭的な雰囲気の中、明るく、清潔で、適度の広さもあり、温度も適切に調節され、利用者が居心地よく過ごせる様になっています。利用者は、前面に太平洋が眺望できるリビング兼食堂で日中殆ど過ごしているそうです。行事写真や季節の飾りが掲示され、季節感を感じます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中はリビングで過ごされる方が多いが、利用者様相互の関係性や相性を観察し、座席やその場の空気には注意するようにしている。声掛けしながら疲れを感じた場合は休んでもらうようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族が持ち込まれるものや、以前から大事にしているものなどは居室に保管し安心感を持って毎日を過ごせるようにしている。	居室は、エアコン、ベッド、カーテン、押し入れ又は小ダンスが添え付けで、適度の広さもあり、清潔で、利用者が快適に過ごせる様になっています。職員は、利用者の高齢化(平均89歳)を考え、入口からベッドへの動線確保(物を置かない)に努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示や手すりなど、理解し行動しやすい工夫が施設内にはあるが、それだけでは不十分なケースも多いため、トイレや入浴の際も、声掛けや説明を行いながら利用者様を見守るように注意している。		